

公認心理師養成カリキュラム調査 報告書

2020年1月24日

公認心理師養成大学教員連絡協議会（公大協）

学部カリキュラム検討委員会

公認心理師養成大学教員連絡協議会（以下、公大協と略）は、2019年7月、公認心理師制度の充実のために、全国の大学の養成カリキュラムについての調査を実施した。

8月15日に締め切られ、この結果に基づき2019年9月13日の日本心理学会シンポジウムで報告を行った。さらに〆切を12月10日まで延長した。

第二次〆切までに、計44件の回答が寄せられた。

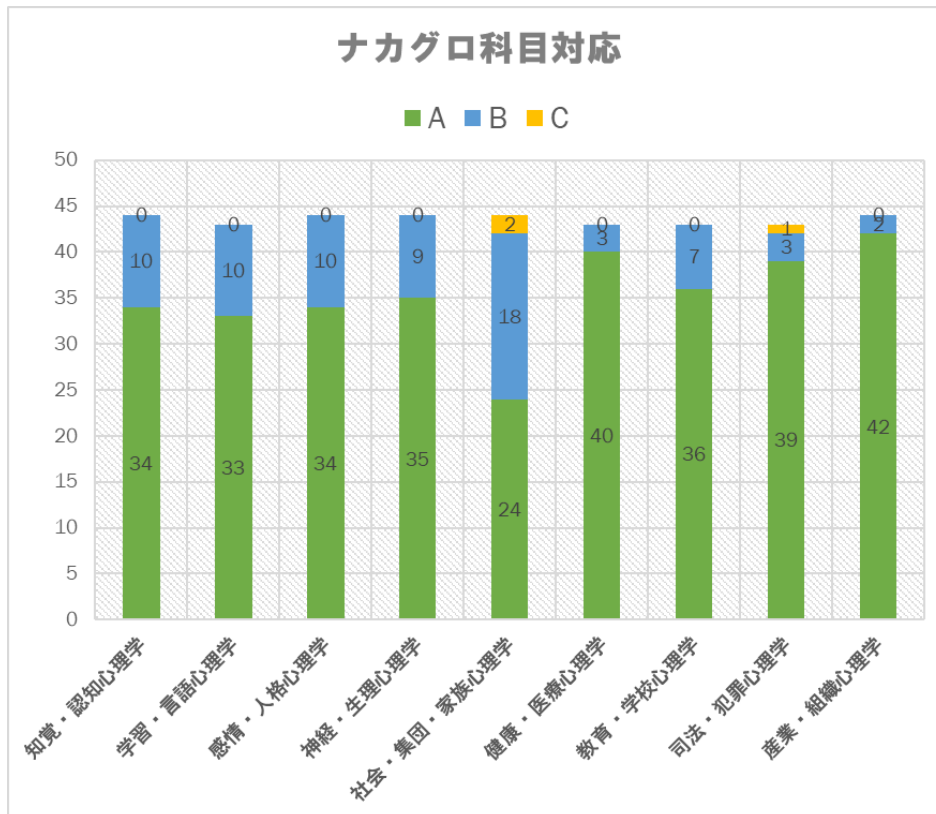
以下、調査の結果を報告する。

なお、アンケートの質問項目は文書末にまとめた。

問1 従来、独立していた科目を「・」で繋げた科目（いわゆるナカグロ科目）についてどのように実施されていますか？

- A そのままナカグロ科目1科目として実施している
- B ナカグロで繋がれた科目をそれぞれ独立させて、実施している（例えば、知覚・認知心理学 I, 知覚・認知心理学II, 学習・言語心理学1, 学習・言語心理学IIなど）
- C 公認心理師カリキュラムの科目は科目としてナカグロ科目は1科目としてそのまま実施し、従来の科目は従来通り実施している（例えば、社会・集団・家族心理学, 社会心理学, 集団心理学, 家族心理学というように）

これに対する回答を下図に示す。



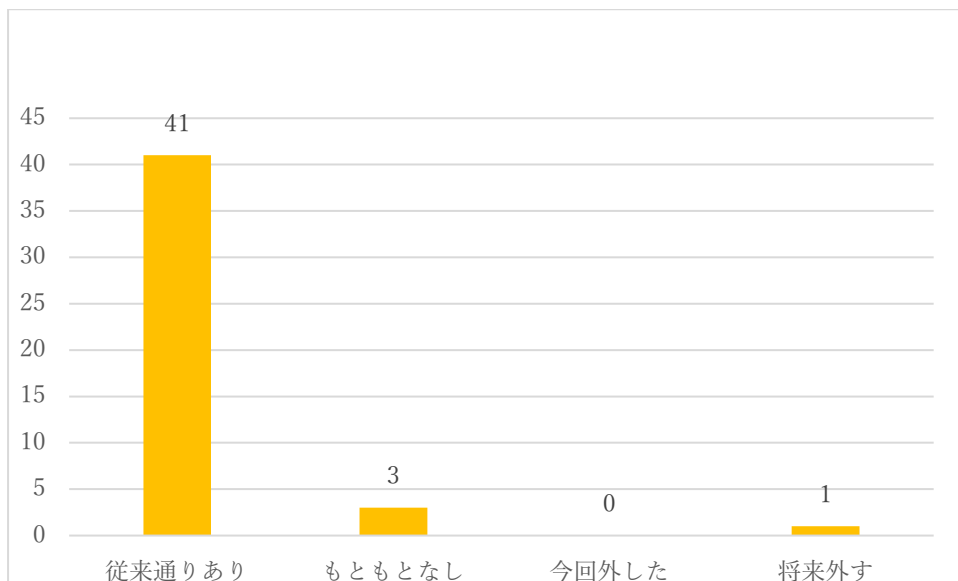
注記 A、B、C 以外のその他の回答については集計から外している。

この回答から分かるように、「社会・集団・家族心理学」を除く、ほとんどすべての科目について、公認心理師カリキュラムの科目名の通りに1科目でしかも2単位授業として実施している。さすがに「社会・集団・家族心理学」はナカグロで繋がれた科目を独立させ、3科目（計6単位）、2科目（計4単位）として実施している大学も少なからず存在する。

問2 卒業論文は公認心理師カリキュラムには設定されていませんが、貴学では従来通り、卒業論文（卒業研究）を必修として求めていますか？

- () 従来通り。卒業論文（卒業研究）を求めている。
- () もともと、卒業論文は求めている。
- () 公認心理師カリキュラム導入以降、卒業論文（卒業研究）はカリキュラムから外した。
- () 現在は卒業論文を求めているが、将来はカリキュラムから外す予定である。

その結果は下図の通りである。



従来通り、卒論を求めるという回答が大部分であるが、1つの大学が、将来、卒論を必修から外すと回答した。

問3 公認心理師カリキュラムの実施に当たって、新たに教員を確保しましたか？

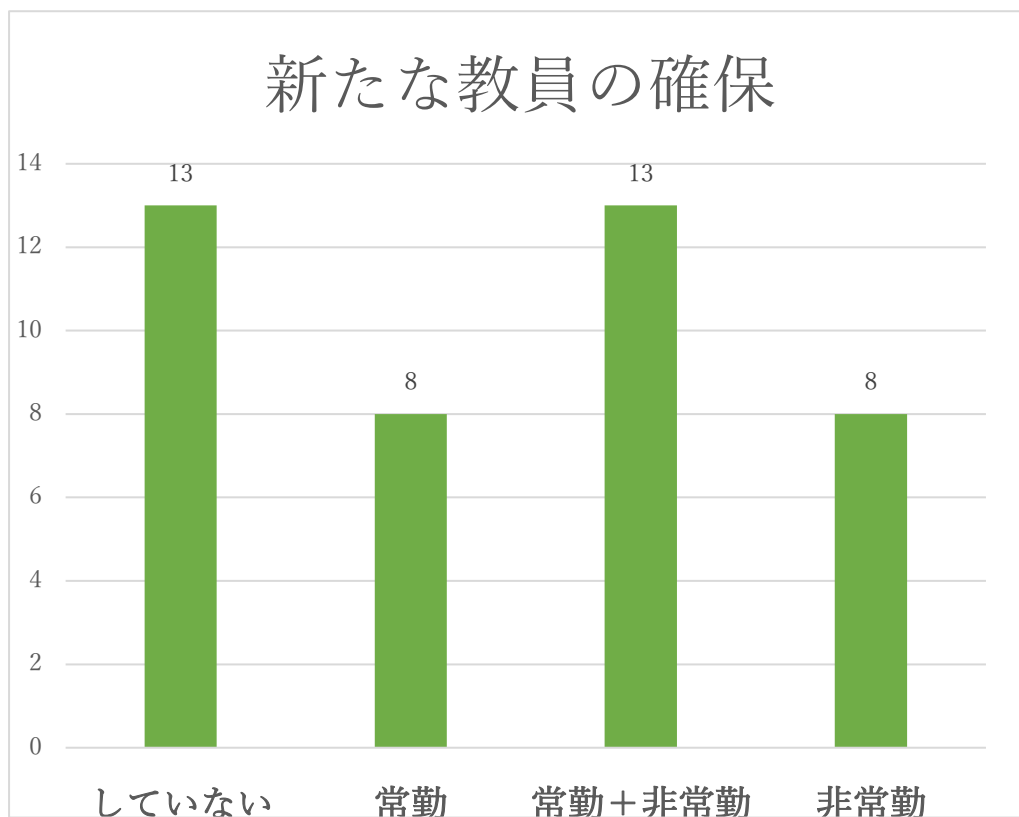
() はい () いいえ

「はい」の場合、それは常勤ですか、非常勤ですか？ 科目名を記入してください。

常勤で採用した科目名 ()

非常勤で採用した科目名 ()

これに対する回答は次の図に示す。

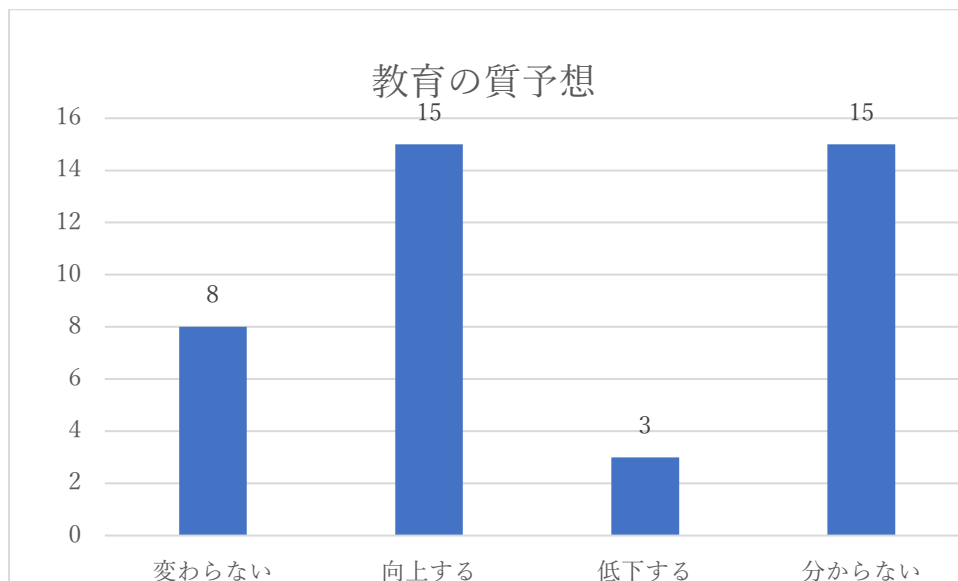


回答の7割近くの大学が新たに公認心理師カリキュラム実施のために教員を採用している。

問4 公認心理師カリキュラムの実施以降、貴学での心理学教育の質がどう変化すると予想されるかということについて質問します。今後、心理学教育の質は

- () 変わらない
- () 向上する
- () 低下する
- () わからない

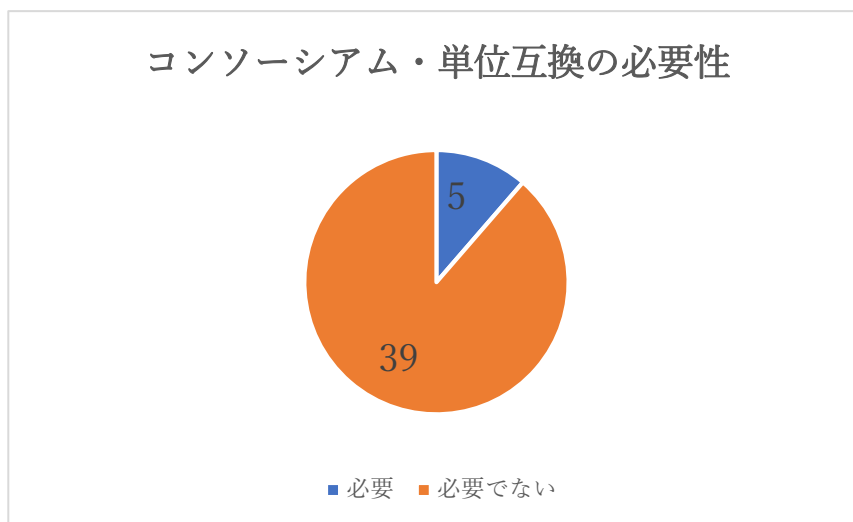
この結果は下図のとおりである。



「向上する」との回答が「わからない」と同数で一番多く15件であり、次に「変わらない」8件、「低下する」が最少の3件であった。

問5 貴学では、コンソーシアム（複数の大学が協力する制度）や他大学との単位互換などによって公認心理師カリキュラムを整備することを必要としていますか。

回答が得られた44件についてまとめたところ、下図のような結果になった。



コンソーシアム・単位互換の必要性についての自由記述を見ると、必要性を感じている大学は、「地方の国立大学なので近隣の私立大学とも連携したい」、「より円滑なカリキュラム実施ができる」、「足りない科目をすべて非常勤で雇用し続けるのは財政的に無理」といった意見がある一方、必要性を感じていない大学は「煩雑」、「近隣に単位互換できる大学がない」、「他大学に気軽に移動できる環境ではないので、機能するか疑問」といった意見もある。「インターネット等を利用した双方向授業ができれば他大学との連携も考えられる」のように設備次第では可能という意見もある。

各大学の置かれた状況をから考えると、コンソーシアム・単位互換の必要性はあるが、現実的ではないという意見が大方である。

問6 公認心理師カリキュラムと心理学の学部教育の現状と今後について、お考えを自由にお書きください。

自由記述で注目されるのは、公認心理師養成カリキュラムの内容が応用分野とりわけ医療現場に偏ったものになっているとの意見があり、これでは学部のとらわけ基礎教育の質が低下すると危惧する意見が散見されること、公認心理師資格取得を目指さない学生への教育をどうするか、との意見もある。公認心理師カリキュラムに教員の労力がかなり必要とされる一方で、実際にその恩恵を受ける学生は限られるとの意見もある。以前より、臨床心理学の比重が大きくなった一方で、基礎心理学が軽視されているとの意見もある。

自由記述には、今後の心理学教育についてバラ色を描く意見はほとんどなく、将来を憂う見解が多く認められる。

まとめ

昨年 2018 年度の年報でも述べたように、「社会・集団・家族心理学」「学習・言語心理学」に象徴的に現れているナカグロ（・）科目が多いことによる学部における心理学基礎領域の教育の希薄化が進む可能性が高いという懸念は、カリキュラムについてのアンケート結果を見て、なおさら強く持たざるを得ない。多くの大学が、ナカグロ科目を「社会・集団・家族心理学」を除き、そのまま 2 単位の科目として実施し、各科目当たりの時間数の減少が進んでいるのが見て取れる。しかも今は 1 大学に過ぎないが、今後、卒論を必修から外すというところも出てきている。しかしこのような全般状況にも関わらず、今後の教育の質の行方に関して、「向上する」という楽観的な予想をしている大学も多い。

確かに公認心理師カリキュラム実施によって、それまでカリキュラムになかった、「司法・犯罪心理学」などの項目が設けられることによってかなり包括的なカリキュラムになったことは確かであるが、これによる弊害もある。

- ・ 卒業論文のレベルが低下し、研究者になるために大学院に進学する学生が少なくなっていく。
- ・ 卒論が学生にとっても指導する教員にとっても負担となり、卒論を求めなくなる大学が増えていくと予想される。

この予想は、今後、卒論を必修から外すとしている大学が 1 校ではあるが出ていることから、この傾向は増えていくのではないか。今後、心理学教育の質が保てるのだろうか。アンケートには楽観的な見通しをしている回答が多いが、どうしてそのような見通しが持てるのか、今後、シンポジウム等で議論を深めていく必要がある。また、教育の質に関する実態調査をチェックする組織が必要なのではないだろう。公大協の内部に作る、あるいは学位授与機構につくるなどの考えがあり、検討をする必要がある。

昨年の年次報告書でも指摘したように、公認心理師養成カリキュラムは科目認定ではなく、課程認定として運用されており、これによって大学間でコンソーシアムが組めないという問題がある。さらに学びの集大成の機会である卒業論文を欠いているなど大きな問題が放置されており、今後、心理学の人材養成において将来に禍根を残すのではないかとと思われる。早急な改善が必要である。

公認心理師養成カリキュラム調査 質問項目

大学学部カリキュラムについて

現在、公認心理師カリキュラムを実施されている大学にお尋ねします。教育の質を低下させないために様々な試みをなさっておられると存じます。現状と工夫についてお尋ねします。

問1 従来、独立していた科目を「・」で繋げた科目（いわゆるナカグロ科目）についてどのように実施されていますか？

次のような方法が考えられます。各ナカグロ科目について、A,B,C,Dのいずれの方法で対応しているかについて表にご記入ください。

A そのままナカグロ科目1科目として実施している

ナカグロ科目1科目としてではなく、それぞれの科目の従来の単位数を確保するために、**ナカグロ科目を複数の科目として小分けして実施している場合**、その実施の仕方について教えてください。

B ナカグロで繋がれた科目をそれぞれ独立させて、実施している（例えば、知覚・認知心理学Ⅰ、知覚・認知心理学Ⅱ、学習・言語心理学Ⅰ、学習・言語心理学Ⅱなど）

C 公認心理師カリキュラムの科目は科目としてナカグロ科目は1科目としてそのまま実施し、従来の科目は従来通り実施している（例えば、社会・集団、家族心理学、社会心理学、集団心理学、家族心理学というように）

D その他の方法

| 科目名 | | 単位数 | 対応方法 | | | |
|-----|-------------|-----|------|---|---|------|
| 1 | 知覚・認知心理学 | | A | B | C | D() |
| 2 | 学習・言語心理学 | | A | B | C | D() |
| 3 | 感情・人格心理学 | | A | B | C | D() |
| 4 | 神経・生理心理学 | | A | B | C | D() |
| 5 | 社会・集団・家族心理学 | | A | B | C | D() |
| 6 | 健康・医療心理学 | | A | B | C | D() |
| 7 | 教育・学校心理学 | | A | B | C | D() |
| 8 | 司法・犯罪心理学 | | A | B | C | D() |
| 9 | 産業・組織心理学 | | A | B | C | D() |

問2 卒業論文は公認心理師カリキュラムには設定されていませんが、貴学では従来通り、卒業論文（卒業研究）を必修として求めていますか？

- 従来通り。卒業論文（卒業研究）は求めている。
- もともと、卒業論文は求めている。
- 公認心理師カリキュラム導入以降、卒業論文（卒業研究）はカリキュラムから外した。
- 現在は卒業論文を求めているが、将来はカリキュラムから外す予定である。

公認心理師カリキュラムと卒業論文について、お考えを自由にお書きください。

()

問3 公認心理師カリキュラムの実施に当たって、新たに教員を確保しましたか？

- はい
- いいえ

「はい」の場合、それは常勤ですか、非常勤ですか？ 科目名を記入してください。

常勤で採用した科目名 ()

非常勤で採用した科目名 ()

問4 公認心理師カリキュラムの実施以降、貴学での心理学教育の質がどう変化すると予想されるかということについて質問します。

今後、心理学教育の質は

- 変わらない
- 向上する
- 低下する

問5 貴学では、コンソーシアム（複数の大学が協力する制度）や他大学との単位互換などによって公認心理師カリキュラムを整備することを必要としていますか。

- はい
- いいえ

コンソーシアム制度や他大学との単位互換について、お考えを自由にお書きください。

()

問6 公認心理師カリキュラムと心理学の学部教育の現状と今後について、お考えを自由にお書きください。

()